

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 9 日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2010～2013

課題番号：22330180

研究課題名(和文) 現代日本人の価値観：古層と伝統的思想(仏教、儒教、神道・国学)の影響

研究課題名(英文) Social values of modern Japanese: Influence of the basic cultural layer and the traditional thoughts (Buddhism, Confucianism, and Shintoism)

研究代表者

大淵 憲一(OHBUCHI, KEN-ICHI)

東北大学・文学研究科・教授

研究者番号：70116151

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,100,000円、(間接経費) 3,930,000円

研究成果の概要(和文)：仏教、儒教、神道等の伝統的思想は慣習、習俗、処世訓として日本人の生活に深く浸透し、現代日本人の価値観にも影響を与えているとの仮定のもと、伝統的価値観を測定する質問紙尺度を作成し、その信頼性と妥当性を検討するとともに、日本と同じ東アジア文化圏に属する中国と韓国、それにこれとは異なる文化圏に属するアメリカにおいてこれを施行し、伝統的価値観の国際比較を試みた。その結果、この価値観が多様な側面を包含する多元性を持つものであること、東洋に固有のものではないこと、神道に類似の価値観が日本以外の国にも見られること、年代差は4カ国に共通で、概ね、年長者ほど伝統的価値観が強いことなどが見いだされた。

研究成果の概要(英文)：Assuming that the traditional thoughts in Buddhism, Confucianism, and Shintoism spread in Japanese life through social rituals and customs or the art of living and so these still have a substantial influence over modern Japanese people's values, we attempted to construct a questionnaire scale to measure the traditional values, to examine its reliability and validity, and further, using it, to make a intercultural comparisons of the values between Japan, other Asian countries (China and Korea), and non-Asian country (USA). The results indicate that the traditional values are multidimensional including different values, these are not unique to Asian countries, and even Shintoistic values are found in other countries than Japan. Age differences were found commonly in all the countries, that is, elders generally endorsed the traditional values.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：心理学・社会心理学

キーワード：価値観 伝統的思想 仏教 儒教 神道 文化比較 尺度

1. 研究開始当初の背景

(1) 近年の価値観研究は個人主義・集団主義などエティックなアプローチが主で、日本独自の価値観を捉えようとするエミクナ試みは少ない。60年代の丸山真男の古層論などで議論された伝統的思想のはたらきは近年の実証的科学研究では無視されてきた。

(2) しかし、仏教、儒教、神道は、慣習、習俗、処世訓、倫理徳目として日本人の生活に深く浸透しており、それ故、それらは現代の日本人の価値観にも影響していると仮定することができる。

(3) 我々は、正義・公正概念をこれら伝統的思想の中に求める文献研究を行っており、これを元に伝統的価値尺度を作成する準備が進められてきた(大淵・川嶋, 2009)。

2. 研究の目的

(1) 日本の伝統的価値観を測定する尺度を作成し、また、その信頼性と妥当性を検討する。その後、実用性を高めるために、短縮版を作成する。

(2) 日本と同じ東アジア文化圏に属する中国と韓国、それにこれとは異なる文化圏に属するアメリカにおいて、伝統的価値観尺度を施行し、これらの国の間で比較を行い、日本人の価値観の独自性を明らかにする。

(3) 価値観の年代差及び性差を上記4カ国において検討する。

3. 研究の方法

(1) 文献研究を通して伝統的価値観を測定する項目を作成し、無作為抽出した日本の成人2400名に対して郵送によって無記名で回答を求めた。986名分から回答が得られ、このデータを基に因子分析と信頼性の検討を行った。

また、妥当性検討のために、新たに成人サンプル、全国から無作為抽出した2700名に対して、伝統的価値観尺度と集団主義・個人主義を測定するTriandis & Gelfand (1998)の尺度を日本語に翻訳したものを郵送し、やはり無記名により782名から回答を得た。

(2) 日本、韓国、中国、米国において伝統的価値尺度短縮版を用いた調査をインターネットによって実施した。男女別、年代別(20代、30代、40代、50歳以上)それぞれのグループを50名以上(各国400名以上)から回答を得ることを目標に調査を実施した。

(3) 同上の調査で得られたデータを分析する。国別に、伝統的価値観に関して性差と年代差を調べる。

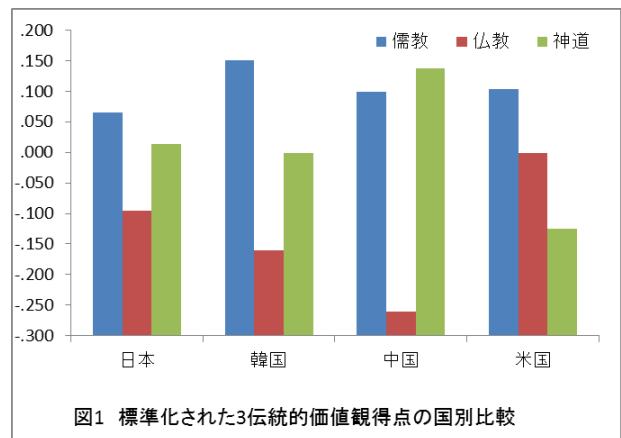
4. 研究成果

(1) 伝統的思想に関する文献研究から作成した123項目から成る伝統的価値観尺度V1に対する986名からの回答について因子分析を行い、仏教4下位尺度(厭世主義、禁欲と慈悲、輪廻と法力、空と超俗)、儒教4下位尺度(恥と世間、天意・天命、賢君思想、忠孝と義務)、神道6下位尺度(相対主義、集団的功利主義、社会的調和、歴史の内発性、楽観主義、ものあわれ)を見いだした。

14個の下位尺度の信頼性を α 係数で検討して項目を選抜し、76項目から成る伝統的価値観尺度V2を作成した。この尺度は賢君思想と歴史の内発性を除き他の下位尺度の α がすべて0.6以上となり概ね許容水準にあるものだった。

次に、伝統的価値尺度の妥当性を検討するために、新たな調査対象者である日本人成人782名に対して、この伝統的価値観尺度と個人主義・集団主義尺度への回答を求めたところ、伝統的価値14尺度のうち8尺度が水平的個人主義に対して、また10尺度が垂直的個人主義に対して有意な負の相関を示すことを見いだした。厭世主義が両タイプの個人主義と有意な正の相関を、相対主義も水平的個人主義との間で有意な正の相関を示すなど、予想外の結果も一部見られたが、概ね、伝統的価値を測定する下位尺度が集団主義との間に正の関連性を示したことは、その妥当性を示唆するものである。

これらふたつの調査データを基に、統計的にまた内容的に下位尺度を代表する項目を半分ほど選抜して合計37項目から成る短縮版を作成した。国際比較に用いることを念頭に、日本文化にのみ固有の下位尺度「ものあわれ」はこの短縮版から除いた。



(2) 国によって反応傾向が異なるので素点を直接比較することはできない。本研究では、価値観項目の得点を個人内で標準化し、その平均値によって下位尺度得点を作った。更に、下位尺度得点の平均値によって仏教、儒教、神道の3価値観の得点を作成した。

図1に示すように、これら3価値観は国によって違いがあり($F(5.739/3625.088)=61.60, p<.001$)、儒教的価値観は韓国が最も高く、

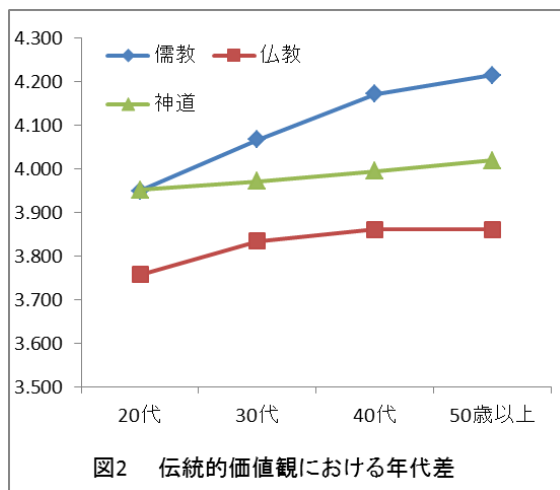
他の3カ国の間に違いはなかった。仏教的価値観は米国が最も高く、次いで日本、韓国の順で高く、中国が最も低かった。神道的価値観は中国が最も高く、次いで日本と韓国が高く、米国が最も低かった。

儒教的価値観の中では、忠孝と義務と賢君思想の得点が全体として高かったが、特に、韓国と中国が高かった。最も低得点なのは天意・天命だったが、この下位尺度では4カ国の中で米国が突出して高かった。恥と世間は中程度で国どうしの差異も小さかった。

仏教的価値観の中では、禁欲と慈悲が全体として高く、中でも日本と韓国が特に高かった。次は厭世主義が高く、4カ国の中では日本と米国が高かった。輪廻と法力、空と超俗は全体として低得点だったが、米国だけは輪廻と法力の得点が突出して高かった。

神道的価値観の中では相対主義、社会的調和、歴史の内発性が全体として高得点であった。相対主義と歴史の内発性では日本と中国が高く、社会的調和に関しては韓国と日本が高かった。集団的功利主義と楽観主義は全体的に低得点だったが、4カ国の中では中国が最も高く、次いで韓国が高かった。

これらの結果は、第1に、仏教、儒教、神道が少なくとも統計的には一貫性を持った整合的次元ではなく、多様な側面を包含する多元的価値観であること、仏教的、儒教的価値観が現代において東洋にのみ固有のものではないこと、また、神道的価値観もまた日本に特に強いわけではなく、類似の価値観は他の国にも見られることなどを示している。



(3) 年代差に関しては、素点を用いて国別に分析した。その結果、全体としては年長者ほど伝統的価値観が強いという傾向が見られた(図2)。それは韓国と中国において顕著だった。

韓国では、儒教の4下位尺度すべて、仏教の禁欲と慈悲、輪廻と法力、空と超俗、神道の集団的功利主義、社会的調和、楽観主義において、中国では、儒教の恥と世間、賢君思想、忠孝と義務、仏教の禁欲と慈悲(女性のみ)、空と超俗、神道の集団的功利主義、社

会的調和、歴史の内発性、楽観主義(男性のみ)において年代差が有意だった。

一方、日本と米国における年代差は一貫性がなかった。日本では儒教の忠孝と義務は年長者が高得点だったが、神道の相対主義では逆に若年者の方が高得点だった。米国では、仏教の禁欲と慈悲は年長者が高得点だが、空と超俗では若年者の方が高得点、儒教の天意・天命では若年者が高得点だが、忠孝と義務では年長者が高得点、また、神道の歴史の内発性と楽観主義では若年者が高得点だった。

性差が最も明瞭なのは米国で、仏教の禁欲と慈悲、輪廻と法力、儒教の賢君思想、忠孝と義務、神道の相対主義など多くの下位尺度において女性が高得点だった。ただ、仏教の空と超俗においてのみ男性が高得点だった。

日本でも女性の方が高得点の下位尺度が多く、仏教の輪廻と法力、儒教の天意・天命、神道の楽観主義(30代、40代)において女性が高得点だった。しかし、神道の歴史の内発性は男性が高得点だった。

韓国では逆に男性が高得点の下位尺度が多く、それは儒教の恥と世間、忠孝と義務、神道の社会的調和(20代のみ)だった。

中国では一貫性した性差はなく、歴史の内発性は20代の女性が男性よりも高得点だが、仏教の禁欲と慈悲では30代の男性が女性よりも高得点だった。

引用文献

大淵憲一・川嶋伸佳(2009). 日本の伝統的価値尺度の作成: 仏教、儒教、神道・国学思想に基づいて. 文化, 73, 110-140.
Triandis, H. C. & Gelfand, M. J. (1998). Converging measurement of horizontal and vertical individualism and collectivism. Journal of Personality and Social Psychology, 74, 118-128.

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計9件)

大淵憲一, よりよい社会を求めて. 佐藤嘉倫・木村敏明(編), 不平等生成メカニズムの解明: 格差・階層・公正(ミネルヴァ書房), 査読無, 2013年, 321-336頁.

Saito, T. & Ohbuchi, K., Who suffers pluralistic ignorance of conflict avoidance among Japanese? Individual differences in the value of social harmony. International Journal of Conflict Management, 24 巻, 査読有, 2013年, 115-125頁.

Sato, H., The emergence of SHINKOKU (Land of Gods). Blezer, H. & Teeuwen, M.

(Eds.), *Ideology in Japan: Buddhism and Nativism* (Leiden: Brill), 査読無, 2013年, 29-49頁.

Sato, H., *Kami that beckons from the far shore*. *Bulletin of Death and Life Studies*, 8巻, 査読無, 2013年, 37-61頁.

佐藤弘夫, *アマテラス神話の中世*. *季刊東北学*, 27巻, 査読無, 2011年, 29-40頁.

川嶋伸佳・大淵憲一・熊谷智博・浅井暢子, *多元的公正感と抗議行動：社会不変信念、社会的効力感、変革コストの影響*. *社会心理学研究*, 36巻, 査読有, 2011年, 63-74頁.

三浦秀一, *明代科举「性学策」史稿*. *集刊東洋学*, 103巻, 査読有, 2010年, 41-61頁.

Ohbuchi, K. & Atsumi, E., *Avoidance brings Japanese employees what they care about in conflict management: Its functionality and "Good Member" image*. *International Journal of Conflict Management*, 3巻, 査読有, 2010年, 117-129頁.

川嶋伸佳・大淵憲一・熊谷智博・浅井暢子, *社会階層と公正感：多元的公正判断と社会的属性の関係*. *文化*, 73巻, 査読無, 2010年, 83-99頁.

〔学会発表〕(計5件)

山本雄大・佐藤潤美・大淵憲一, *婚姻が階層帰属意識に与える影響*. *日本社会心理学会第54回大会*, 2013年11月3日, 沖縄国際大学.

佐藤弘夫, *日本と東アジアのカミを考える*. *際シンポジウム：関係性における日本・韓国*, 2013年10月5日, 台湾大学, 台北, 台湾.

Kumagai, T. & Ohbuchi, K., *Effect of perceived morality of conflicted outgroup on support for reparation policies*. *The 20th Conference of International Society of Research on Aggression*, 2012年7月18日, University of Luxemburg, Luxemburg.

Asai, N. & Ohbuchi, K., *Impact of extended contact on Chinese attitude toward Japanese before and after the Earthquake 2011*. *The 13th Annual Meeting of Society for Personality and Social Psychology*, 2012年1月28日, San Diego Convention Center, San Diego, USA.

Yamamoto, T. & Ohbuchi, K., *The effect of women's social status on the attitude toward benevolent sexism*. *The 12th Annual Meeting of the Society for Personality and Social Psychology*, 2011年1月29日, Henry B Gonzalez Convention Center, San Antonio, USA.

〔図書〕(計2件)

岩部直・黒住真・佐藤弘夫・末木文美士, *岩波出版, 岩波講座日本の思想 2*, 2014年, 328頁.

Ohbuchi, K. & Asai, N., *Trans Pacific Press, Inequality, discrimination and conflict in Japan: Ways to social justice and cooperation*. 2011年, 229頁.

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕

6. 研究組織

(1) 研究代表者

大淵 憲一 (OHBUCHI, Ken-ichi)

東北大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：70116151

(2) 研究分担者

佐藤 弘夫 (SATO, Hiroo)

東北大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：30125570

(3) 連携研究者

三浦 秀一 (MIURA, Shuichi)

東北大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：80190586